

TOPICS NEWS

榴岡公園の有効活用と気軽に使えるコミュニティの場づくりチャレンジ



榴岡公園の社会実験

榴岡公園の魅力UP!『社会実験』が始まっています。

仙台駅東まちづくり協議会では仙台駅東口エリアの公共空間（歩道や公園）を有効活用する為の取り組みを進めております。

仙台市ではこれまでも勾当台公園や西公園などにおいて市民や市民活動団体、民間事業者との連携による社会実験や運営管理を行うなど、公園を核とした都市の魅力向上に向け取り組んでいることから、当協議会では仙台市と連携し、榴岡公園において新たな賑わいの創出とサービスの向上を図る社会実験を実施しております。是非、ご来園下さい。



まちなかバーベキュー



ドッグラン



キッチンカー



遊具レンタル



パークフィットネス

DATA

〒983-0842
宮城県仙台市宮城野区五輪1-301-3外

社会実験内容の詳細は
右記QRコードより
ご確認ください

仙台駅東まちづくり協議会
ホームページ ▶



「DNP MAPベース地域振興情報発信プラットフォーム」で 仙台駅東口エリアの旬な情報を配信



仙台駅東口エリアの注目スポット情報をリアルタイムでチェック！

SNSとの連動でさまざまな地域情報をリアルタイムに提供

大日本印刷(株)様の協力のもと、地域の地図をベースとしたデジタル観光マップ「DNP MAPベース地域振興情報発信プラットフォーム」の利用を開始し、街の情報を発信しております。

本システムはTwitterやInstagramなどのSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)と連動して、地域の観光情報、店舗情報など、さまざまな情報・コンテンツをリアルタイムに提供できるサービスです。

仙台駅東口エリアを訪れる方だけでなく、地域の方々にも活用いただけるサービスですので、是非、ご利用下さい。

本サービスは、アプリ不要で
どなたでも無料でご利用できます。
右記QRコードよりご覧下さい。



住む。働く。楽しむ。学ぶ。
多様なアクティビティがある街の情報を発信！



榴岡公園「桜まつり」4年ぶりに開催！
詳細はQRコードでチェック！▶





MESSAGE 理事長からのメッセージ

住みやすく、魅力ある街づくりを目指して、積極的な活動を進めて参ります

日頃より、当協議会の活動へのご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。
37者の会員でスタートした当協議会も、お蔭様で多方面の賛同を受け、会員数が57者(令和5年3月時点)になりました。

令和3年度から2カ年に渡り、宮城野通を沿道で国土交通省、仙台市の協力を受け実施して参りました「賑わい・モビリティ・物流が共存する道路空間の社会実験」も無事終了し、また、榴岡公園で実施しておりました「榴岡公園パークマネジメント社会実験」での取り組みも大変好評で、次年度も新たな取り組みと共に継続実施する運びとなりました。

コロナウイルス感染症の影響も落ち着き、去年は、宮城野通での「夏まつり仙台すずめ踊り」が3年ぶりに開催されました。更に今年は榴岡公園「桜まつり(お花見)」も4年ぶりに開催、また駅東地区では、ヨドバシカメラ様の新しいビルの開業など、少しずつ街にも賑わいと活気が戻ってきております。

引き続き、住みやすく、魅力ある街づくりを目指して活動に邁進して参りますので、ご理解、ご支援のほどお願い申し上げます。

仙台駅東まちづくり協議会 理事長 松坂 卓夫

MATSUZAKA TAKUO



ACTIVITY 仙台駅東エリアにおける「多様なモビリティが混在する道路空間の社会実験」に関する報告

仙台駅東まちづくり協議会では、仙台駅東口から楽天モバイルパーク宮城等へつながる宮城野通において、広幅員道路空間を活用し、「賑わい・モビリティ・物流」の複合種類のモビリティが同時に混在した際の走行安全性や利便性を検証する社会実験を国土交通省と仙台市の協力をうけ、令和3年度から令和4年度まで実施致しました。その取り組みについてご紹介致します。

01. はじめに

仙台駅東地区は、2015年度に土地区画整理事業が完了後、居住人口が年々増加しており、住宅だけでなく、オフィスや専門学校が集積しています。また、実験対象地の宮城野通は、JR仙台駅東口から楽天モバイルパーク宮城等を結ぶ総延長が約1.5km、最大幅員50mのシンボルロードです。

この地区の課題としては、JR仙台駅西口と比べて、宮城野通の沿道に店舗が少ないことや東北楽天ゴールデンイーグルスのホーム球場である楽天モバイルパーク宮城でプロ野球の試合前後を楽しむ場所が少ないこと等の日常的な賑わいが不足していることや、地区内に循環バスがないため、東西方向の宮城野通だけでなく、南北方向(約1km)の移動手段も、徒歩や自転車利用が多く、施設間の移動手段が不足していることなどが挙げられます。

02. 宮城野通等での道路空間の利活用に関する実証実験

この地区の課題の1つである移動手段の不足について解決策を検討することを主な目的として、2021年4月に国土交通省道路局が公募した「道路に関する新たな取り組みの現地実証実験」の採択を受け、令和3年度から令和4年度にかけて既成市街地における多様なモビリティの導入時の安全性や快適性の検証及びエリアマネジメント活動の継続性等の実証実験を行いました。

本社会実験のワーキンググループの実施体制は、当協議会等が実施主体となり、協力事業者として各モビリティ事業者が参画し、オブザーバーとしては国土交通省東北地方整備局仙台河川国道事務所、宮城県警、仙台市にも参画していただき協力事業者によるモビリティサービス等の提供や各専門家の知見を踏まえた法整理及び効果検証などについて協議を行いました。

具体的な実施内容は、「複数種類の交通モードの導入」と「次世代モビリティ共同ポート等の設置」について、実施場所の選定や関係法令の整理等を行いました。

「複数種類の交通モードの導入」では、国土交通省の「道路政策ビジョン2040」を参考としながら、賑わい系(キッチンカー)、モビリティ系(電動キックボード、電動アシスト自転車、自動走行車いす、路上カーシェアリングステーション(以下、「ST」))、物流系(スマートロッカー)の3つを宮城野通付近に導入し、複数種類の交通モードが同時に混在した際の走行安全性を検証しました。

「次世代モビリティ共同ポート等の設置」では、キッチンカーや次世代モビリティが充電やWi-Fi等の利便機能を共用できる共同ポートを設置し、キッチンカーの出店や次世代モビリティの貸出し等が快適に行えるように「利便性向上支援策」を検討しました。

(1)複数種類の交通モードの導入

① 電動キックボード及び電動アシスト自転車

地区内の多様な移動手段の1つとして、電動キックボードと電動アシスト自転車(DATEBIKE)の貸出しポートを歩道内に併設しました。電動キックボードは、経済産業省の新事業特例制度の特例措置を受けて2022年5月から実施しました。電動アシスト自転車は、2013年から市内で事業が開始していましたが当該地区内に貸出しポートが少ないことが課題となっていました。また、電動キックボードと電動アシスト自転車を併設し、経路や利用目的の違い等を比較検証することを目的として実施しました。



▲電動キックボード(左)と電動アシスト自転車(右)

② AI自動運転車いす

AIカメラを搭載した車いすで歩道内を走行し、障害物(柱や縁石、歩行者等)を検知して静止する操作をアシストする装置に関して、実証実験(実験1～3)を行いました。実験1では、歩道内の障害物を撮影し、機械学習させてAIデータを構築しました。実験2では、車いすにカメラを搭載し、構築したAIデータによる分析によって、歩道内の障害物の検知精度を検証しました。実験3では、関係者が乗車し、AI分析による障害物の検知精度や制動距離等を検証しました。



▲AI自動運転車いす

(2)次世代モビリティ共同ポート等の設置

① 次世代モビリティ共同ポート(E-COM STATION)

次世代モビリティ共同ポートには、前述のシェアモビリティの貸出しポートの他、地域情報や走行ルールの動画等を表示する電子看板、宮城県産材を活用した木製プランター等が搭載されています。なお、電動キックボード等への充電はコスト的に実現できませんでしたが、ワイヤレス給電、太陽光発電パネル、蓄電池を設置し、災害時も含めてモバイルチャージの拠点として機能することも目指しました。



▲歩道内に設置した次世代モビリティ共同ポート

② カメラ調査

宮城野通は、片側約11mの広幅員の歩道と一部自転車道が併設しており、本社会実験では、多様なモビリティ等が輻輳する状態を検証しました。具体的には、歩行者、自転車、電動キックボードをカメラで撮影し、通行量や通行位置等を画像解析により抽出し、走行状況等を分析しました。なお、今回は令和2021年に歩行者と自転車、2022年に歩行者、自転車、電動キックボードの走行状況等を分析しました。この結果、歩道内を走行する自転車が多いことがわかりました。この原因として、自転車に対して歩道が広く見通しが効くことや自転車道の路面の根上がりやクランク、夜間照明の暗さ等によるものと考えられます。



▲カメラ調査

③ 路上カーシェアリングST

複数人で利用でき、人と物が移動するモビリティとして普通自動車を用いた路上カーシェアリングST(全長約23m、幅約3m)を設置しました。国内3事例目となる本STは、他都市への普及も見据えて安全性は考慮しつつもできるだけ安価な方法で施工することを念頭に、関係者間で様々な手法を協議しました。実施にあたっては、道路管理者及び宮城県公安委員会と協議を行い、一部の道路附属物(ポールやチェーン等)は道路法第24条道路工事等承認を申請して当協議会が施工しました。2022年4月より、タイムズモビリティ(株)の協力を受けて、カーシェアリングサービス「タイムズカー」の車両を活用して運用開始しました。



▲東八幡丁通の路上カーシェアリングST

④ スマートロッカー

物流手段の1つとして、国内で初めて歩道内にスマートロッカーを設置しました。これはパーソナルモビリティに乗車して地区内を移動する際、荷物の預かりサービスが貸出しポートの近くにあることで、移動が円滑化すると考えて実施したものです。また、当該地区は高速バスの発着所が近接しており、音楽イベント等の開催時には、大きな荷物を持参して通行する姿を多く見かけるため、気軽に荷物が預けられれば周辺の回遊性の向上にも寄与すると考えたところです。2022年5月より、(株)SPACERの協力を受けて運用開始しました。



▲スマートロッカー

(3)多様なモビリティ等の導入時の課題等

本社会実験ではアンケート調査を実施し、各実施メニューに対する意向調査も行いました。ここでは、アンケート調査の結果や各実施メニューの実施に至るまでの協議から得られた課題点等について記載します。

「複数種類の交通モードの導入」では、電動キックボード及び電動アシスト自転車の利用状況として、前者は「趣味や非日常的な体験」として利用した方が多く、後者は「通勤や通学」など日常的な移動手段として利用した人が多いことがわかりました。この結果の違いは、前者は国内でも一部地域のみで普及しており、仙台市内では初めて利用した人が多かったために生じたものと考えられます。今後、一般的な移動手段の1つとして普及した際には、多様な目的に応じた手段の選択が実現できると考えます。AI自動運転車いすでは、障害物を検知してからGPSを用いて通信するため、通信速度によって制動距離が長くなる等の課題がありました。路上カーシェアリングSTでは、視認性が高い道路内にSTを設けることで県外からの来訪者でも見つけやすい等のニーズがあることがわかりました。

また、得られた知見として車両を後進で駐車する必要がないことで運転が苦手な方でも利用しやすいといった意見もありました。

スマートロッカーは、他の移動手段や周辺イベントなどの目的とセットで設置場所を検討することで、まちなかの回遊性の向上に寄与すると考えられます。

「次世代モビリティ共同ポート等の設置」では、各モビリティの貸出しポートに近接して電子看板を設置し、走行ルール等を周知することで、利用者へ安全な利用を促しました。また、本社会実験では、専属スタッフを週3日で雇用し、現地で利用方法の説明やパンフレットの配布、清掃等を実施したことで新しいモビリティ等の導入に対する地域住民の不安を和らげることに繋がりました。カメラ調査では、AI分析と併せて目視調査も行い、分析精度を確認しながら調査しました。調査時間帯や気象条件、調査対象物の背景(交差点のゼブラ帯等)、画角、解像度、道路内のカメラ設置場所の選定など、撮影条件の制約が伴いますが、少ない人員による調査の補助や調査結果の精度向上の一助として、活用の幅が広がることが期待されます。

03. おわりに

本社会実験では、「道路政策ビジョン2040」の実現に向け、新たなモビリティ等を道路空間に導入する際の課題点等の抽出を目的として実施し、多様な課題点が明らかになりました。

今後も本社会実験の成果をもとに、公共空間も含めた様々な地域資源を活用しながら、「住む・働く・楽しむ・学ぶ」が混在し多様なアクティビティがあるまちを目指して、地域の課題解決や賑わいづくりに寄与するエリアマネジメント活動を推進して参ります。